

栄光

説教・「わたしたちの罪のため」岸牧師…1
 特集・震災について考える……2
 追悼・倉田陽子姉……5
 書評・この理不尽な世界で「なぜ」と問う……5
 説教・「祈りの家の成果」狩野牧師…6
 牧師の書き込み…7
 牧師の書斎から…7
 長老のファイル…8

『わたしたちの罪のため』

創世記15章1節～7節

ローマの信徒への手紙4章18節～25節

岸 俊彦

説教

「彼は希望に反して希望を信じた」(ロマ4・18直訳)。

アブラハムの希望があります。子のない自分は誰に家を継がせるのか、その希望です。しかし、その希望に反する希望があります。神がアブラハムに与えてくださる希望です。人間の希望ではなく神の希望を信じるのか。神の言葉を信じるのか信じないのか。「あなたの子孫はこのようになる」(創15・5)との神の言葉をアブラハムは信じました。

それから14年、「あなたを多くの国民の父とする」(17・5)と神はアブラハムに再び語りかけました。その時「百歳の男に子供が生まれるだろうか。九十歳のサラに子供が産めるだろうか」とアブ

す神の笑いです。これほど大きな笑いがあるでしょうか。

私たちが「信仰に生きるのか」「不信に生きるか」と問われたら、もちろん、信仰に生きたい。しかし実際は信仰に徹しきれません。

第2イザヤを通してバビロン捕囚の民に神が語られました。「わたしの思いは／あなたたちの思いを、高く超えている…わたしの口から出るわたしの言葉も／むなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ／わたしが与えた使命を必ず果たす」(イザヤ55・8～11)。

キリストは、「神を信じなさい。はっきり言っておく。だれでもこの山に向かい、『立ち上がって、海に飛び込め』と言ひ、少しも疑わず、自分の言うとおりになる」(マルコ11・22、23)と語られました。その続きがあります。「だから、言っておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる」(同24節)。

主が御言葉で私たちを満たしてください。私たちの希望に反

して、神の希望に満ち溢れさせてください。私たちの信仰を強めてくれる希望です。

パウロが私たちに伝えたいことは、「イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、わたしたちが義とされるために復活させられたのです」(ロマ4・25)と告白する信仰です。教会が受け継いできた信仰です。この信仰の根が実はアブラハムにありました。神が語りかけ、アブラハムが祈ったように、十字架と復活のキリストのおかげで、私たちは罪赦され、神と結ばれ、キリストの命に与り、新しく生きることが出来ます。信じて義とされた者に注がれた主の恵みです。

礼拝で御言葉によって主の力に満たされ、私たちの信仰は新しくされます。御言葉に力づけられ、聖霊に導かれて、遣わされるそれぞれの場で、主を賛美し、主の栄光をあらわすことができます。主イエス・キリストを死者の中から復活させてくださった神は、不信仰な者を義としてくださる御方です。神にできないことはありません(マルコ10・27)。

ラハムは笑いました(17・17)。サラも笑いました(18・12)。年月を経て神の約束を信じ続ける方が難しいのです。その約束が荒唐無稽であれば笑うしかありません。「なぜサラは笑ったのか」(18・13)と主は問い詰めました。恐ろしさのあまりサラは「笑いませんでした」と打ち消しました(15節)。それにもかかわらず、笑った2人を神は叩きつぶそうとはなさいませんでした。その約束を取り消すことなく実現してくださいました。死んでも同然の百歳のアブラハムと九十歳のサラに新しい命を授けてくださいました。その子はイサク(ヘブライ語「神が笑う」と名付けられました。人の笑いを吹き飛ばし、人の不信を吹き飛ば



東日本大震災から11年経ち、少しずつ記憶が薄れていく一方で
最近もたびたび地震が起きています。

震災に対してあなたが気を付けていること、次の世代に継承したいことは何ですか？

いつか来る日

岩崎真理

3月になると東日本大震災のあの日のことを思わずにいられません。この現代の日本で1万8千人以上が亡くなられたという事実は人間の無力さを思わされます。

岸先生から地震について書くように言われたのは、私たち家族が阪神大震災の次の年に神戸に転勤したことで、その後2000年に娘の祐子が住んでいた米子で鳥取県西部地震に遭ったこと、そして2004年家族で行っていた旧山古志村で中越地震に遭ったからです。

山古志での地震は、最初地震とは思わず何か爆弾でも落ちたのかと思ったほど、自分の中の地震の概念からかけ離れた揺れでした。

地震に遭って身に染みて感じたのは、人間はほんの一瞬先も知ることができないということ、自分の生き死にさえ自分で選べないということでした。後で考えると命を失っていたかもしれない「も

しもあの時」がいくつもありました。主の御守りを感謝しました。以前経堂北教会の防災訓練で消防署の人から「自助、共助、公助です。あなたの家が燃えていても消防車は来ません。公助が来るまでの用意を」と言われました。それを肝に銘じて自分で心掛けていることを書いてみます。

災害のさ中にいる人が一番情報を得ることができません、ラジオは必要です。携帯電話は多分繋がらないし、バッテリー切れも心配です。117の防災伝言板利用など、家族の連絡方法や避難先を決めておく。神戸の友は「暗いのが一番怖い。枕元に着替え、靴、懐中電灯を置かないと寝られない」と言っていました。寒さ暑さへの備えも必要です。神戸も東日本も寒い時で、どんなに辛かったかと思えます。水もトイレも、と書きだすとキリがないですが、防災ハンドブックを読んでおくとか構えもできて必要なものもわかります。

地震を防ぐことはできませんが、その後の日々を生きる準備はできます。経堂北教会の皆さまの上に主の御守りをお祈りしています。

終末がいつ来てもいいように

宇田川雅子

11年前のあの日あの時間、私は勤務する高校の教員室にいた。試験休み中だったが、顧問をしていたクラブの三送会（三年生を送る会）のために出勤していた。

1階の教員室でもかなりの揺れを感じたので、急いで5階の送別会場に上った。すると色とりどりの風船やペーパーチェーンに彩られた教室では、在校生たちが卒業生たちのために用意して机にのっていたはずのごちそうの数々がお皿ごと床に落ちていた。それを見つてすぐに1階より5階の揺れの方が激しかったことがわかった。

あの日は寒かったが、その後は生徒たちを全員グラウンドに避難させた。余震が収まらず、その度にグラウンドの照明器具がガタガタと大きな音をたて、生徒たちがとても怖がっていた。電車が止まったため、親と連絡がとれた生徒には迎えに来てもらい、迎えに来られ

10年が経って…

大友太郎

ない生徒たちは学校で一夜を明かすことになった。男女で泊まる階を分けたものの、夜中の見回りが必要だった。私は午前3時〜4時のシフトで、その後午前5時から教員会議だった。午前8時頃より電車が動き始めたので、親と連絡がついた生徒たちは次々と帰宅した。私が学校を出たのは正午過ぎだったと思う。疲れ果てた1日だったが、津波の被害にあった方々、長年住んでいた場所にもはや住むことができなくなった福島の方々のことを考えると、私の経験は大したことはないと思う。加えて原発の恐ろしさを改めて考えることとなった。

大震災以降、水や食べ物をストックするようになった。リングストックするようになった。が、何よりも自分の人生がいつ終わっても不思議ではないと思うようになった。聖書にも天変地異についての記述が多くあるが、昨今は地震に加え、コロナのようなパンデミックに世界が翻弄され、どのような災害がいつ起きても不思議ではなくなってしまう。与えられた健康に毎日感謝しつつ、日々を大切に生きていきたい。

コロナ禍ももう3年目になる中、今は北区の小学校で週2日、地元の学童保育所でも週2日ほど短時間仕事をし、のんびりと日々を過ごしています。

東日本大震災以降も日本で、また世界各地で大規模な自然災害がいくつもありました。自分の暮らす場所でもいつどんな災害が降り注いでくるか計り知れません。起こるかもしれないことを思い煩ってもしようがないというのが正直な思いです。ただ、我が家は古く現在の耐震基準を満たしていないので、連れ合いからは早く耐震工事を、と言われてはいるのですが。

東日本大震災があったとき、一度、教員を辞める折だったので、被災から1ヶ月後の4月半ばに石巻でボランティアとして関わらせていただき、その被害の大きさに圧倒されました。また、一人ひとりのボランティアの思いに触れ、

それまでの価値観などいろいろなことが大きく変わっていくような気がしたことを覚えています。原子力発電の後始末や在り方についても多くの人が声を上げ、自分もデモなどに参加もしました。

それから10年が経ち、改めて振り返ってみると、情性に流されている自分がおり、政治においても誰も責任も取らず、廃炉作業は進まず、核廃棄物の最終処分の方策もないままに崩しに原発維持が進められ、汚染水放出がされようとしています。この風景は、自分がずつと興味をもつて調べていた先の戦争の敗戦のときも同じなのではと思わされます。

社会に対して異議申し立てをすることはしんどいことではあり、日々の暮らしに流されてしまいがちですが、自分なりにできることをしなければと思います。このような時代と国に遣わされているキリスト者として、米軍基地のPFO（有機フッ素化合物）流出、辺野古基地建设、森友問題、敵基地攻撃の是非など、目を向け、為すべきことを常に問いながら生きていきたいと思えます。

備えあれば憂いなし

岡山いち

幼い頃から地震による揺れが大嫌いで、とても怖いものだと思っていました。明治生まれの祖母からは1923年の関東大震災の話

をくり返し聞かされ、「地震ほど怖いものはなく、火災も起きて何もかも失ってしまふ」と。我家には非常持出のリュックサックが備えられておりましたから、50余年前結婚した折、大きなリュックサックを用意して行きましたら、運送屋さんから「登山が趣味ですか」と言われてしまいました。

27年前の1995年、「阪神淡路大震災」が発生しました。その直後に被災地を訪れる機会がありました。上空から見た神戸は屋根を覆ったブルーシートがモザイク状に点在し、美しくさえ映る景色でした。市内の諏訪山小学校の体育館には被災者が何の仕切りもなく所狭しと詰め込まれており、息を飲む状況で強い衝撃を受けました。

それから16年後、2011年「東日本大震災」が発生しました。直

後に東京の味の素スタジアム、引き続き福島県、宮城県、岩手県に行きましたが、地震のみではなく津波の被害も大きく神戸とは比べものにならない惨状でした。犠牲者約1万5千人、約15万人の人々が避難生活を送っていました。しかし避難所の環境整備は格段に進みプライバシーがかなり確保されておりほっとしました。それでも仮設住宅などに移るまでの長い期間そこでの生活を余儀なくされる方々の苦労は計り知れません。

被災地の厳しい現実を目の当たりにし、東京にも何時起こるか分からないと痛感し、対策を始めました。先ず家具の倒壊防止を、戸棚上段の硝子や瀬戸物の食器を下段に移し、木製食器を上部に置き替えました。次はトイレです。水が出なくなれば直ちに困りますのでポータブルトイレを用意しました。そして食料と飲料水です。レトルト食品などを数種類、水は飲料用として常に新しく調え、期限切れはそれ以外の用途に向けています。「備えあれば憂いなし」です。

日常を送れる幸せ

岡山芳則

父、母が生きた時代は空襲があり、明日をも知れぬ極限を体験しました。祖父、祖母の時代は関東大震災に見舞われました。祖父母を早く亡くした僕は、直接話を聞いておりませんが、宮崎駿が映画『風立ちぬ』で関東大震災を取り上げているのを観て、その時代を生きた人にとって、消すことができない記憶だったと感じました。

さて、今年も3月11日が近づいて来ました。僕たちにとっては、東日本大震災が消すことができないう記憶になっています。幸い、東京にいた僕は、東北の人から見れば「知りもしないくせに。」と言われるでしょうが、日常の生活が送れる幸せを感じた時でした。勤務先で卒業間近の「お別れスポーツ大会」の準備をしているときに大きな揺れがあり、まず、子どもたちの安全確保に当たりました。日本は、4つのプレートの境界

に位置するので、大地震にしばしば見舞われ、大きな被害を出してきました。地理的に考えるとどうにも仕方が無いことです。でもその反面、火山の恩恵も受けています。美しい山々、豊かな自然、温泉、海洋資源。災害を「嫌なことだ」と悲観的に考えるだけではなく、感謝と畏敬をもって共に生活してきた先人の知恵に倣うことも価値あることのように思います。

東日本大震災の時も日常が取り戻せず、辛い思いをしました（いまだに苦しい生活をしている方がいることを覚えて祈ります）。この2年間のコロナ禍でも日常のありがたみを痛感しました。さらに、ウクライナの戦火の中で、明日の不安、今の不安の中で、日常どころではない人々が大勢いらっしやることに涙せずにはいられません。マザー・テレサは「愛の反対は無関心」だと常々おっしゃっていました。まず、「無関心にならないように」。次に、今の僕に何ができるのかを考える姿勢を忘れないようにしたいと思います。神様、どうか、一步を踏み出す勇気をお与えください。

追悼

微笑みの内に

故・
倉田陽子姉

ご葬儀の日、真紅の薔薇が祭壇一杯に飾られました。陽子さんはご主人の高さんから、結婚を承諾するまで毎日一本ずつ薔薇を贈られたそうです。そのことから息女の澄子さんが整えられました。

陽子さんは18歳の時、霊南坂教会で受洗され、後に恵泉女学院時代の友人も多かった経堂北教会に転会されました。下高井戸のご自宅から、時には孫の慶さんを後ろに乗せて自転車教会にいらしてました。婦人会の役員もされ、バザーの時には皆でおでんの材料を買い出しに行き、前日から煮込み、味付けで悩んだり、聖歌隊の合宿では練習後にお好きなゴルフや水泳の話をしたのも楽しい思い出です。

いつも微笑みを絶やさず、落ちていた物腰の陽子さんでしたが、

ご結婚3年で高名なチェリストであったご主人が天に召された後も義父母、義妹のお世話を最後までしておられました。そして澄子さんがチェロを始められると楽器を運ぶために車の運転をし、演奏活動が忙しくなると、その几帳面さ

でマネージメント、孫の学校行事に出席するなど、澄子さんが素晴らしい演奏家、指導者になられるためのサポートをさりげなくなさり、娘には「静かなる猛女」と言わしめる陽子さんでした。

陽子さんが六女としてお生まれになった長岡家と私の祖父母は、赴任先の盛岡で同じ教職者、クリスチャンホーム同士として、家族ぐるみのお付き合いが生まれ、雪国でのクリスマスでは一緒に賛美歌を歌って楽しかった話など、母からよく聞いておりました。以来百年を越えるお付き合いとなりました。

それぞれに素晴らしい活躍をなさり先に召された5人のお姉様方、赤い薔薇の花で迎えるご主人、私の母もご一緒させていただき、今頃はきっと賑やかにお話しされていることでしょう。(岡田みな子)

Book

この理不尽な世界で
「なぜ」と問う

— ICU 式「神学的」人生講義

魯 恩 碩 (ロ ウンソク) 著

国際基督教大学の魯恩碩教授は旧約学が専門です。『旧約文書の成立背景を問う』という学術書では、「ベルシア時代のユダヤ教共同体の様々な人々が歴史のかつ社会経済的試練と苦難に直面し、それを神に対する信仰によって乗り越えようと苦闘した結果」生み出されたのが旧約であることを論じています。旧約学者が学生たちにとどのようにキリスト教を伝えるのか、興味を持って読みました。

この本は7人の学生と教授との対話形式によつて8つのテーマで議論が進められます。その出発点は、「この世界に満ちている不条理な事象や理不尽な問題と、キリスト教がいう『善良で全能な神』の概念は共存できない」のだから、「私は、キリスト教の神を信じることができな」と言つた学生の問題意識です。

「第七講【絶対平和主義と正戦論】この世界に、正当化できる暴力や戦争はあるのか?」「第十一講【資本主義と共存の倫理】競争社会で出抜かずに生きることができるのか?」、その他に人権思想、環境問題など12講で私たちが抱える現代的課題が取り上げられ、そこからキリスト教を問い、議論します。ハーバード大学『白熱教室』の日本版と言ってもよいでしょう。

聖書には、この世界の耐えがたい苦しみの渦中で、神に「なぜ」と問いかけた人々が登場します。私たちも神に対して「なぜ?」と問いかけることができるのです。困難な中で自分の限界を知るからこそ、「なぜ?」という問いは「祈り」となります。この世界には「祈り」という言葉がない言語はないそうです。「叫びであり、怒りであり、悲しみであり、格闘であり、苦しみである祈り」をそのまま受け入れてくださる神がキリスト教の神です。この神との出会いがキリスト教信仰の出発点です。そこからもつと知りたいたいと思う人が信仰を持つのです。(岸 俊彦)

説 教

『祈りの家の成果』

イザヤ書56章1節～8節
マルコによる福音書11章12節～21節

狩野進之佑

この箇所では主イエスがいちじくの木を呪って枯らし、また神殿の商人たちを暴力的に追い出したという出来事が報告されています。憐み深い主イエスの姿からすると、なんだか想像がつかないような有様です。しかしながら主イエスのこの苛烈さ、神を思う情熱もまた、キリストの重要な側面と言えるでしょう。

主イエスはエルサレムへの道中に生えていたいちじくを呪うのですが、このいちじくはエルサレム神殿を象徴したものだと言われます。実りを結んでいない木が呪われ、枯れていく様に、神殿が重ね合わされるのです。主イエスが神殿において語った言葉は、このいちじくにかけられた呪いの言葉と同じ重みを伴った呪いの言葉として読んで良いと思います。「こう書いてあるではないか。『わたしの家は、すべての国の人の／

祈りの家と呼ばれるべきである。』ところが、あなたたちは／それを強盗の巣にしてしまった」(11・17)。主イエスは神殿を「強盗の巣」と呼びました。強盗のように、自分の利益のために、他人々がどうなるかと構わないとする人々の場所と呼ぶのです。実際、エルサレム神殿は「すべての国の人の祈りの家」と呼べるものではありませんでした。神殿の商人たちが活動していた場所は「異邦人の庭」と呼ばれる場所でした。神殿に来た異邦人が祈るならば、そこで祈るほかない場所では、商売の喧騒に包まれていたのです。異邦人たちを蔑ろにし、異邦人の祈る場所を神殿の運営、商人たちの利益追求、ユダヤ人参拝者の利便のために用いていたのが当時の状況でした。「今から後いつまでも、お前から実を食べる者がいないように」。そのように呪い

の言葉をかけられたいちじくと同じように、祈りの実を結ばない神殿もまた枯れはてる、滅びる運命をたどるのです。

この神殿に対する呪いの言葉は、私たちがエルサレム神殿の過ちに後ろ指を指して笑うためにあるものではありません。私たちがこの言葉を備えて聞かなければならないのです。主イエスの神殿に対する厳しい言葉は、その延長線上に教会と私たちに対しても警告として備えられた言葉であります。私たちはこの場所を祈りの実を豊かにつける場所として立てなければなりません。主イエスが来られた時に「まだ季節が来ていないのです」などと申し上げることはできないからです。明日世界が滅びるから、神の国が来るから、その時になったら実をつけようというのではなく、今この時にも、これから先も、いつでも実をつけている場所として、この場所を立てねばならないのです。

教会は、また私たち一人ひとり、祈りの言葉によって形造られます。生まれたばかりの赤ん坊の頃、私たちは祈りの言葉を知りま

せん。そのまま教会に来ることがなければ、祈りを知ることありません。教会で祈りを聞くから、私たちは祈りを知るのであり、そうして知った言葉によって祈るから、キリスト者として形造られるものです。悔い改めの祈りに、贖い感謝する祈りに、キリスト者として相応しく生きることを願う祈りに、伝道の進展を願う祈りに、教会と私たちは形造られます。祈ることで人は悔い改める者、感謝する者、キリストに繋がる者、伝道する者、その集まりである教会となるのです。

祈りは実を結びます。祈りの成果は私たち自身のあり方に表れるのです。あるいは、神殿を強盗の巣に変えたユダヤの人々もまた、そうであったかもしれません。自らの救いは望むけれども、他者や弱者を憐れまない祈り、主の御心を顧みない強盗の祈りがエルサレム神殿を形造ったのではないでしょう。私たちの祈りが葉ばかりで見た目だけ立派ないちじくの木とは違って、その祈りを通して、いつでも神の求める実を豊かにつけるものでありたいと願います。

！ 牧師の書き込み

愛知守山教会での臨時教会総会が開かれ、無事私の4月以降の招聘が承認されました。遅い時期にはなりましたが、ようやくひと安心することができました。牧師・伝道師の仕事というのは神様から与えられるもので、与えられないのならば、それはそれで御心だらう、などと頭では考えていたりするのですが、それはそれとして無職になるのは嫌ですし、他の仕事

で食いつなぐのも牧師になった甲斐がないというものです。兎にも角にもこうして任地が与えられました。ここまで祈りに覚えてくださった皆様、この場を借りて感謝申し上げます。こうしてひと心地着いたのは良いのですが、そちらに気が行っていたせいか、この教会での働きがもう1ヶ月もないまです。荷造りをしたり、この教会でやっておかなければならないことをしたり、愛知守山教会で何をするかを考えるうちに、こ

の気持ちも変わるでしょうか。

このコーナーも今回を含めて後2回になりました。もともとは本の書き込みに引つけて、本にあることに線を引いたり、書き込んだりするうちに、日々起こることに線を引いたり書き込んだりするようになり、そういうコーナーにしたいと思って名付けたのを思い起こします。どうも日々漫然と過ごしてしまっているので、この初志に従ったものが書けたのは稀なのですけれども、それでも振り返って読んでみると、3年間確かに神の恵

みが自分に豊かであったことを思い起こさせられるものです。毎月書くことが思いつかずに首をひねり、栄光編集委員会を困らせながらも、続けたからこそ知ることができるところでした。そう思いつつも恥ずかしながら正直に申しまして、ようやくこの重荷から解放されると思うと心が軽くなります。余談ですが愛知守山教会でも『栄光』と同じように、教会誌を出しているようです。「強いられた恩寵」という言葉を思い起こします。

(狩野進之佑)

● 牧師の書斎から



礼拝後、受付の公衆電話が通話出来ないと言われました。確かに10円入れても何の反応もありません。開けてみると料金箱には10円しか入っていませんでした。コロナ禍で教会に来ることが出来る人は皆、スマホか携帯を使っているのでしょうか。ずっと使われているのか、故障しているのか、誰か付きませんでした。

東日本大震災と私たちは震災を経験してきました。台風、豪雨による自然災害も毎年のように起こります。公衆電話は万一の備えに必要だろうと、月々2千数百円を支払っています。AEDは5千500円です。水や非常食も十分ではありませんが備蓄しています。地下の水をくみ出すために水中ポンプと発電機もあります。避難訓練で非常ベルを押しても鳴らないことがありました。消防署の立ち入り検査で地下の非常灯の不具合が指摘されていたので、

あわせて教会全体の配線を業者に点検してもらいました。漏電が見つかつたりと大がかりな修理となりました。

ガス器具の点検も4年に1度あります。21年度は30年以上使ったFFC暖房機6台を全交換する予算を組んでいましたが、全く製品が手に入りません。幸い機器は問題ありませんでした。

ガス漏れ、水道漏れ、トイレの詰まりと建物の老朽化が目立ちます。その都度業者を依頼し、修理です。ピータイルやイスの修理は

教会員が週日してくれます。とても助かります。教会の外では水道管の取替工事で大変です。出入りさえままなりません。

公衆電話の不通は外の線が切れていたためでした。N.T.T.の責任です。修理は終わったので停電しても携帯が混み合ってもアナログ電話が役に立つでしょう。もともと役に立たない方がよいのですが。平和だからこそ点検も修理もできるのです。つくづく人間が問題だと思えます。

(岸 俊彦)

阪神淡路、中越、能登、そして

個人消息



掲示板



- 棕櫚の主日 4月10日(日)
- イースター 4月17日(日)
- 教会総会 4月24日(日)

編集後記



- ▽「春一番」が吹きましたが、私たちの心にもざわざわとした気持ちが吹き荒れていないでしょうか。平和を祈り続けたいと思います。(沢田)
- ▽震災から時間が経ち、日々の生活に流されていることに改めて気付きました。自分なりに出来ることをやらねばと痛感しています。(酒井)

「栄 光」2022年3月号
 日本基督教団 経堂北教会
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038
 牧師：岸 俊彦 牧師：狩野進之佑
 編集：栄光編集委員会
 Email：kyodon@nifty.com
 HP：http://kyodokita.life.coocan.jp

長老のファイル

コロナ禍に入り3回目の春です。一度も礼拝を途絶えさせることなく、今日に至っていることに感謝です。

対策をしながら暮らすことも、人との距離の取り方もすっかり上手くなってしまいました。もっとも、大勢の人々と密になるのも得意なほうではありませんし、わたしの部署は広いフロアに4人しかいないので生活はそう変わりませ

ん。しかし1時間半の電車通勤は、やはり毎日緊張します。

2月に予定していた臨時教会総会は、コロナの影響で出席者が定数に満たなかったため、まだ開かれていません。狩野先生は牧師としての赴任地も無事決まっています。この総会でしつかりと経堂北教会卒業が決まるまでは落ち着かないことでしょう。狩野先生の赴任地は偶然にも先生の地元の愛知県。しかし、牧師になって見える景色は、それまでとは違ったものかもしれません。

3月の臨時教会総会の後には、定期教会総会も4月24日に控えています。予定通り無事に開催できますようにと祈ります。定期総会では、この歴史に残るコロナ禍をどうやって教会員が乗り越えたかをしつかり記録、評価し、収束後の希望につながる有意義な計画の場になることを願います。

教会学校長として21年度を振り返ります。感染者数の激増に伴い、生徒の出席者が0人の主日も度々ありました。教師たちは職場における日々の激務のなか、力の限り

説教の準備をして臨みますが、語りかける子どもがいません。しかし教師たちは一人として礼拝を諦め、投げ出すことはありませんでした。CS説教担当の長老も同じです。子どもがいない日は、教師同士の深い学びの日として感謝をもってCS礼拝を捧げました。思い出に残る時間です。CS教師の皆を誇りに思い、尊敬しています。常にCSを祈りにおぼえてくださる教会員の皆様に感謝いたします。

(石室裕二)